2021年（令和３年）４月１日
くげぬま探求クラブ

会報　くぐひ

第105号(春号)

◇　くぐひ（鵠）は白鳥の古い呼び名。鵠沼には昔たくさんの白鳥が飛来したことによる　◇

新任の挨拶「走りながら考える」

新世話人代表　大木 信一

この度、くげぬま探求クラブの世話人代表を引き受けることになりました。

新世話人６名の初会合の際、私はクラブ員としての年数が２年で世話人の経験もなく、しかも２年目の2020年度は新型コロナ自粛でクラブでの活動も殆ど休止状態であったことから代表就任を固辞いたしましたが、他に受ける方もおらず非力ながらお受けすることとなりました。

精一杯、楽しんで世話人代表を務めたいと思っておりますので、何卒、皆さんのご協力をお願いいたします。

私は、元々くげぬま探求クラブの部会であるヤングブラザーズにゲストで参加していたのですが、周囲からの熱心な勧めで入会しました。最初はクラブ会員の名前と顔も中々わからず、他の部会への認識もなくて、例会の席でも皆さんの意見をただ聞くだけでした。

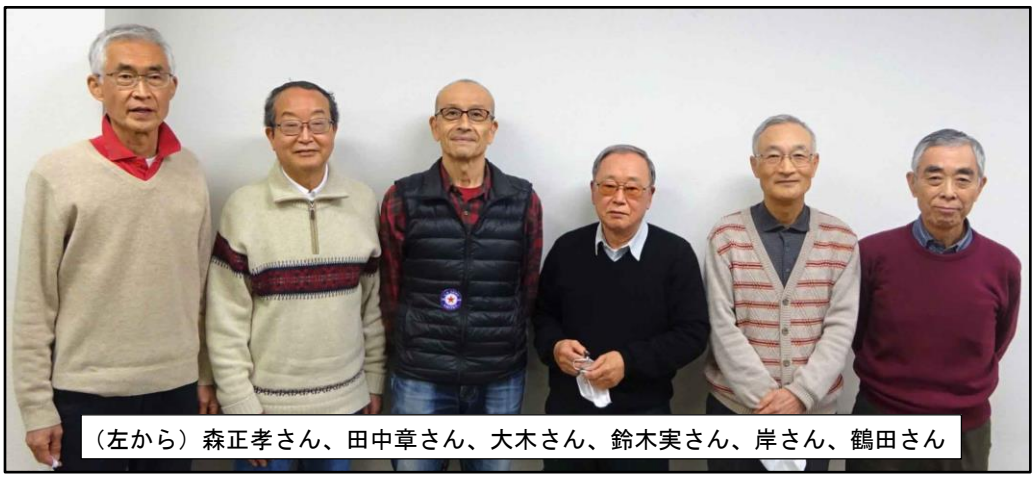
１年目の2019年は、「ヤングブラザーズ」に加え、「松が岡公園愛護会」での清掃活動や「農園部会」の農作業、「ひょっこり鵠南島」「鵠洋児童館」などでの子供達との交流、「公民館まつり」の古本回収作業、納涼会や忘年会等々の活動や行事を通して、多くのメンバーと話す機会を得られました。

しかし、2020年は前述のように新型コロナウイルスの感染蔓延により、くげぬま探求クラブのほとんどの活動が休止となりました。わずかに開催された部会で顔を合わせるメンバー以外には、直接会って話すことができなくなり、まだじっくりと話を伺ったことのない先輩方や新加入のメンバーとの交流は全く図ることができませんでした。

世話人代表の役割はいろいろとありますが、私はその役割を果たしつつ「走りながら考える」姿勢で、ポストコロナ時代の「くげぬま探求クラブ」の一層の発展を目指します。

新世話人一同（岸さん、田中章さん、鈴木実さん、鶴田さん、森正孝さん、大木）が協力して、部会活動が活発円滑に行われるよう、また部会横断的にクラブ員の交流が図られるよう、そして地域交流の活動拠点として様々な地域活性化の貢献活動を実施できるように取り組んでいきたいと思います。

2023年には、くげぬま探求クラブ結成30周年を迎えますが、皆様のご協力により更なる発展の下でその日を祝せるよう、意義ある２年間にしたいと思います。



（左から）森正孝さん、田中章さん、大木さん、鈴木実さん、岸さん、鶴田さん

[旧世話人からひと言]

世話人を終えて

世話人代表　奥村 誠

世話人代表を引受け慣れない仕事に右往左往のスタートでしたが、なんとか 1 年を務め上げる頃にクラブの殆どの部会活動が休止に追い込まれるという異常事態が発生し、再び右往左往という2年間でした。

このコロナ禍で気づいたことは同じ志を持ったクラブ員が集まり、協力しあい行動することの楽しさ、バカを言いながらの楽しい会話等がシニアにとっていかに貴重であるかという事です。それが叶わぬこの状況から 1 日も早く、元に戻って欲しいと願うばかりです。

2 年間を振り返ると就任当初、目標に掲げたクラブ員増員策としてのクラブの知名度向上もコロナ禍の為に道半ばにして、頓挫してしまった事を残念に思います。

一方、目標とした世話人の作業効率化については、クラブ員の皆様の協力もあり、事務のオンライン化により効率化が進みました。次期世話人の方にも継続して頂きたいと思います。コロナの為に何度も世話人会のオンライン開催をしたことも思い出に残ります。

新型コロナとの 13 か月

世話人副代表　池田 修

今期から新しい世話人選抜制度になりました。入会歴が浅い層 4 人、古参組 2 人で編成するアイデアで、後者が運営の潤滑油になるのを期待されたものでしょう。初の新制度下で二度目の世話人になった今回、当初の 11 か月はフツー、その後の 13 か月は新型コロナに翻弄される日々でした。

世話人はクラブ運営の交通整理役なので、今回のような想定外（コロナ）のことに遭遇すると、独断でクラブの方向付けをしなくてはならないことも何度か出てきました。悩んでも仕方がないので、クラブのためにベターになることを判断基準に、その都度 6 人は覚悟を決め対処しました。

任期中何をやったのかと問われると「これだ」というものがないのも確かで、それはコロナのせいでは無く、わが身の知恵の無さだったのでしょう。面倒なことは代表に押し付けながら、私自身は気負いなく自分の役をこなした、と今は思います。個性的で有能な 5 人の仲間と世話人をやれたこと、そしてみなさんのご支援に感謝します。

コロナに翻弄されたお務め

世話人　田中 力

この執筆の機会に振り返ってみたい。 9 年前（2012 年 1 月）に当クラブに入会し、その後 1 年足らずで一回目の世話人に選出され今回二回目のお務めであった。

一回目は訳も判らずガムシャラで充実した楽しい 2 年間、今回は奇しくも一回目と同一日（3 月 2 日）の臨時総会にて、新規約に従い第二グループからのどん尻の得票数での選出であった。2 年前の 2019 年 4 月 1 日に大場城址公園でのお花見が実質、新旧世話人の初の引継ぎのメインイベントであった。当日は新元号の発表日に当たり花見をしながらの「平成」から「令和」へのカウントダウンをした思い出が蘇る。その後は粛々と各部会活動、公民館まつり、忘年会などなど 2019 年が無事終了し、年が明けて 1 月に講演会（極楽部会）を実施したがその辺りから世にいう「新型コロナ」が騒がれ出し 3 月は例会を中止し資料の配布のみとなり更に私の主たる担当である花見を近隣である長久保公園へと変更し何度も現地の下見など種々段取りをしたが止む無くこれも中止となった。

それからはまさしく「コロナ」に翻弄される日々が続いている。

有意義な世話人経験

世話人　岡林 哲夫

私の世話人としての主な担当は例会資料の作成・印刷でした。印刷については、新世話人としての最初の例会（平成 31 年 4 月）の資料を、印刷機の使用法に不慣れで多くの落丁・乱丁のまま配ってしまったことをお詫びします。名簿や 2 ヶ月日程表を、フォントを大きくし見やすくするために 2 頁化したこと、予告を集約化し 1 頁としたことも印刷作業の一つでした。

資料の作成については表紙（議題）と 2 ヶ月活動日程表は代表が、前回議事録は副代表が作成したので、私は行事・委員会・部会報告と行事・部会の予告の作成が中心でした。この作業は多様で活発な探求クラブの活動の状況がよく判り、クラブ歴の浅い身には非常に有意義でした。この一年は、新型コロナの感染防止のため各部会が苦労と工夫をしつつ活動していることに感銘を受けました。

残念なのは、活動自粛のためもあり、世話人になったときに知りたいと書いた「社会的動物である人間が社会人間に高まるとは」が判らないままに退学することです。

世話人を終えて

世話人　嶋村 堯敏

一昨年からクラブの在籍年数により全員を 2 つのグループに分け、それぞれ 2 人、4 人の世話人を選出することになりました。2 年間の短い経験ではありましたが、在籍年数の長いほうのグループから選出された水野さんと私が、その長さゆえに得た考え（長い間に処理してきた案件の経緯、どことなく積み重なっている暗黙の了解や多くのメンバーの表に出ない感覚や考え方などへの理解と忖度など）を世話人会で口に出したことは殆どなく、むしろ在籍年数の短いグループの世話人の人たちが活動の重要な役割を担い、全員がその時々に議論し、適切な判断と対応によって処理してきたと思います。

コロナのため、殆どの部会活動などは制約され、会員同士の交流は一部の部会と「縄のれん」に限られました。サンタの派遣、片瀬小の授業参加などの人員調整の作業、花見など懇親会の準備などは無くなりましたが、世話人会の活動は低下することなく活発でした。公民館の使用可否がしばしば変更になったことから、予測を立てて例会の場所の確保をし、会員への連絡、議案処理の方法をその都度検討するなど、世話人会の回数はむしろ増えたと思います。2 年間の任期の半分以上はコロナに振り回されましたが、いい経験になりましたし、このような異常で不便な状況の中で、文句の一つも言わず会の運営に協力いただいた会員に感謝するとともに、世話人の一員として共に議論し、活動したことに満足しています。

あらためてメンバーのすばらしさを感じて

世話人　水野 祐作

平成から令和への過渡期に世話人となり、2 年が終わった。後半の一年は新型コロナ感染症の感染拡大で自粛生活を余儀なくされ世話人仲間にもお世話になった。

自分達では回避できない制約の中で、世話人会は代表が目標とした IT 技術によるクラブの事務処理の効率化が功を奏し、緊急事態宣言発令直前の昨年 3 月には Zoom によるオンライン世話人会を始め、感染リスクも回避できた。コロナ禍の中、世話人会としては、クラブ全体がそのときどきにできることをするための工夫を凝らしながら毎月を乗り越えた。

この制約下で素晴らしいと思えたのは、日頃、非常に活動的な集団である我が探求メンバーが自粛生活の閉塞感に負けることなく、心地よく過ごす工夫をしている姿がラインのくげ探広場やウェブ酒場縄のれんから感じ取れたことだ。出口も見えず、日常会話も儘ならない中、お互いを気遣いながらストレスを解消できる素晴らしさ。お見事！くげぬま探求クラブメンバー！

２０２１年　年男登場

今年の年男の抱負を投稿していただきました。丑年生まれは 4 人です。

浮き沈み七度迎えし年男

佐々木 黎治

私が 1 度目の年男、12 歳といえばまだ戦後間もない昭和 24 年。都会からの学童疎開の同級生との学力差にカルチャーショックに悩んでいた頃で、ラジオからは菊田一夫のドラマ「鐘の鳴る丘」、同年齢の美空ひばりの「東京キッド」がながれ、新聞は湯川秀樹の日本人初のノーベル賞を報じ、漫画「サザエさん」の連載が始まりました。

24 歳からは様々な業界紙の編集に従事、仕事もさることながら反省会に大方の時間を費やし、1 日が 24 時間では間には合わないような生活に。36 歳、仕事も家庭も落ち着いたが、第 1 次オイルショックで世の中は騒然。世情とはあまり関係ない巨人が V9 を達成。

40～50 代はひたすら仕事に励み 60 歳の定年後も 2～3 の新聞社の編集を手伝ったが、67 歳で妻の死に伴い引退し、住居も本鵠沼 3 丁目から現在の海岸 5 丁目に移住。

縁あって 8 年前、くげぬま探求クラブの 20 周年の年に入会しました。たくさんの仲間は、独身のやもをにとっては誠にありがたく、かけがえのない憩いの場です。84 歳の今は、後世に語り継がれるだろう世界規模のコロナに侵されていますが、乗り越えて、今後もチコちゃんに叱られながら楽しく活動していきたいと願っています。

藤沢七福神巡り

田中 力

年が明け種々の活動、行事が中止される中、＜藤沢七福神巡り＞に初めて一人で挑戦した。

実際には 8 箇所あり 2 回に分けてトータル約 6 時間、3 万歩の周遊だった。

ある神社で目にしたのが「方位除け早見表」で私が生まれた昭和 24 年（六白金星）は八角形の方位盤中央に位置し静観（八方塞がり：自重し行動を慎む）とある。

当該コロナ下今年は深く静かに潜行すべきか。一方運気は絶頂期とある。

さて今、3 月の世話人選出に向けて今年の花見の開催も危ぶまれる中、試行錯誤しながら上手く次期世話人へとバトンタッチ出来るようにただただ祈るのみである。

丑年に思う

森 正孝

私は昭和 24 年生まれで今年 6 回目の年男を迎えます。前回は還暦であり強く意識しましたが、今回は昨年末に年賀状を書いていて「丑年か・・」と思ったくらいで、特別な思いはありません。

もともと干支や血液型による性格分析などは信じないほうですが、幼い頃母親に亥年生まれの姉と比べられ「あんたは愚図やなぁ～」と言われていたことを思うと、丑年なるが故だったのかも知れません。

今回、当クラブ入会 3 年目にして会報へ寄稿の栄に浴しましたが、12 年もの歳月を経て再登場の自信は全くなく、この先一日一日を過ごしていくのみです。と思うのも丑年の性でしょうか。

第 2 の人生 2 倍速「壮年編」

大木 信一

今年の干支丑年、7 周目のスタート。5 周目の 60 歳迄は第 1 の人生、6 周目からは第 2 の人生である。第 1 の人生は、「孤独な努力と忍耐」ばかりで、燃える青春や華麗で頼りがいのある壮年とは全く無縁であった。

そこで私は考えた。もう一度初めから人生やり直そうと。ただし残る時間を考慮すれば、2 倍速で。

6 周目は、2 倍速「青春篇」。バンド活動、ランニングチームでの駅伝やマラソン大会、男声合唱での演奏会など、多くの仲間と青春を謳歌した。

さて、7 周目「壮年編」は如何に？

昨年末に亡くなった安野光雅氏エッセイ集の書名に「私捨悟入」というのがあると知った。そうだ！これからの 12 年間は斯くありたいと思うのであった。

湘南かわら版

自分史エッセイ作り

塩川 昌男

45 歳のとき家族帯同で英国に赴任した。自動車工場建設のためである。それから 5 年ほどの間に、仕事や旅行を通じて欧州のいろいろな国で多くの異文化ギャップ体験があり、驚かされたり感心したりしてきた。いずれ文章にしてみようと思い、気になったことを項目のみ書き残しておいた。

50 歳になり日本に帰任すると、管理職全員のデスクにＰＣが支給されていた。個人でもＰＣを購入して使うようになり、書き留めておいた 80 項目ほどのテーマで文を書き始め、80 ページほどのエッセイ集が出来上がった。

当時、写真はカラーフィルムを使用していた。その後デジカメやスキャン機能の付いたカラープリンターが普及した。カラー写真がＰＣで作成した文章に自由に取り込めるようになると、エッセイの表現の自由度が増した。61 歳で会社をリタイアしてからは改善コンサルタントとしていろいろの国を回った。その間、特に印象の強かった中国、インド、スウェーデンについてもそれぞれ異文化体験記としてエッセイにまとめた。

70 歳でコンサルタントをやめのんびりした生活になると、暇に任せて「断捨離」を始めることになる。古いノートや手帳、写真、成績表、源泉徴収票など、様々なものが出てくる。オリジナル資料は捨てることに抵抗があるが、そんなものを残しておいても将来だれも見ないだろうと思う。そこで思いついたのが「私の履歴書」を書いてみようということだった。うまれてから 70 歳ころまでの自分史を、記憶や写真、各種資料を頼りに書き進め、100 枚ほどの写真を入れて 38 ページの物語を書き終えた。同時に断捨離も進んだ。

書き終えて感じたのは「書き足りない」という思いだった。切り口を変えて書き込めばもっと内容の濃い文が書けるはずということで、その後「私の仕事の思い出」「私の音楽史」「私の写真史」「私の車史」「私の住居歴」「私の旅行歴」などをまとめた。

それでも書ききれないところが残った。例えば子育てに関して、思い出そうとしてもエピソードが浮かんでこないのである。試しに少し書き始めてみて、家内に見てもらった。「全然違うわよ」ということであった。子育てに関しては家内の持つ情報量に太刀打ちできない。そこで家内には子供の誕生から卒業までの記録を 12 ページの「私の子育て記」として書いてもらった。家内は「私の履歴書」を書きたがらない。そこで公民館で始めた英会話サークルで毎週数分のプレゼンテーションをしていることを知り、家内のスピーチを文章化して残すことを提案した。スピーチには個人のエピソードが取り上げられ、一種の個人史につながる。現在 240 項を超えるエッセイ集になった。

そのほか家内関係ではいくつかある。英国滞在中に家内が母に書き送っていた大量の手紙が、母の没後手元に戻ってきた。当時の現地での生活の様子が詳しく書かれていたので「書簡集」としてまとめ、手紙は廃却した。また英会話サークル加入と同時にピアノのレッスンも再開した。毎年数曲仕上がるので前の曲をどんどん忘れていくと思い、仕上がった曲を録音することを勧めた。現在ＩＣレコーダーで録音し、6 曲ごとにＣＤ化している。これも家内の自分史のひとつと考えている。

私の両親は 90 歳近くまで生きたが書き残していたものはほとんど皆無であった。今ではＰＣがあるのでその気になればいくらでも記録として残す方法があり、そのような作業をして感じたことは自分を振り返る良い機会であったことと、断捨離が進むということである。いまやり残している仕事がある。それは「私の探求クラブの思い出」を執筆することである。

地域活動部会紹介

鵠っ子囲碁・将棋ルーム

新コロナウイルスの感染で振り回された部会活動

河村 英二

本部会の歴史は、探求クラブが設立されて 5 年後の 1999 年 4 月に公民館が初めて興した行事を共催の形態で「鵠っ子将棋で勝負」と題する 4 回にわたる講座の開催に遡ります。当時は娯楽部会が推進を担っていました。初めて将棋に触れる子、実際に対局して将棋の面白さを体験して貰う、そのような場を提供する活動です。その後行事内容は進化して囲碁も加えて「鵠っ子囲碁・将棋ルーム」の名称で毎月の教室、3 月にはトーナメント大会、そして公民館まつりには囲碁・将棋の縁台のセッティングなど、ここ 15 年ほど活動してきました。

昨年 2 月の定例部会開催後、感染が益々拡大して政府の緊急事態宣言が発出され、3 月の恒例のトーナメント大会は急遽中止となりました。引き続き 4 月以降活動休止に追い込まれました。その後、感染者数が減少の傾向をみせ 5 月の緊急事態宣言解除、9 月には部会再開を公民館に打診して、3 密の状態を避ける策を採ることを条件に賛意を得て、その具体的な方策の検討、事前準備を行いました。

10 月に次の施策内容を検討しました。まず形態を講師と生徒の対面による講座式とする。4 回シリーズ程度として講座の教材を用意する。対局を想定して飛沫防止のパネルを用意する。少人数で応募式とする。今回は将棋のみとする。11 月、12 月の会合で、飛沫防止のパネルの製作、教材内容の確認及び当日の会場設営、講座のリハーサルを行いました。

その様な準備を経て 1 回目の講座を 12 月 22 日開講しました。募集人員 12 名に対して 8 名が参加して企画した内容に従い無事終了しました。アンケートの感想では、次回も是非参加したいと好評でした。然し残念ながら周知の通りその後、感染の終息が見えず寧ろ新たに 1 月 7 日に緊急事態宣言が発出され、さらに 3 月 7 日まで延長されました。一日も早く終息して部会活動の再開を心待ちにしています。

「将棋の講座」

「出来上がったパネル」

「パネル製作中」

親睦研鑽部会紹介

農園部会

コロナ禍のもと、土に親しむ

鶴田 貞夫

昨年ご紹介させていただいた土いじりが大好きな8名で畑を主たる作業の場とする農園部会の活動のその後をご紹介させていただきます。

コロナ対応策でほとんどの部会が休会をやむなくせざるを得ない状況下、我ら農園部会はいわゆる3密が避けられる屋外の畑での活動なので、マスク着用は当然のことでしたが継続して作業ができることの幸せをかみしめて活動しています。

トマト、キュウリ、ナス、ズッキーニ、トウモロコシを始めとした夏野菜の収穫を満喫した後使用したネット、ポールやマルチの撤去作業をしてナスだけは伸びきった枝を刈込んで追肥を施し「嫁には食わすなとまでいわれている」美味な秋ナスの収穫を堪能しました。

その外の畝は、秋冬野菜の植え付け準備のため堆肥と苦土石灰を一緒に表面にばらまき、シャベルで出来るだけ深く耕し下層土を空気にさらすように天地返しを行い、その後4~5日して土を砕きながら化成肥料（８．８．８）を全層に混ぜ込むように耕し、続いて育てる野菜の種類によって 100～120cm の畝幅で８つの植床を整備しました。

夏から秋にかけての水枯れと秋から冬にかけての低温対策のため、植えつける野菜ごとに穴の開き方が違うマルチを引いてハクサイ、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー、スティックセニョールの苗を植付けるも、昨今の急激な天候変化の影響か根付かず枯れてしまう苗も発生し、植え替える事態も生じてしまい一同落胆に打ちひしがれるも、その後は順調に生育し、鍋物を主体とした料理で無農薬野菜を堪能しております。

ブロッコリー、スティックセニョールは頂花蕾を収穫後も脇芽を現在でも収穫しており楽しんでいます。続いてダイコンとカブの種まきをして 12 月には収穫でき葉っぱの部分も食べられ大満足です。

残りの畝には冬越しのできるタマネギ苗、ラッキョウの苗、絹さや苗の植え付けをして春先の収穫を楽しみに当番制で見守りをしております。

故・西村卓三さんを偲んで

北岡 慶太郎

昨年末 12 月 4 日、体調不良で休会中の西村卓三さんが逝去された。享年 87 才でした。

西村さんとの出会いは、平成 7 年夏、出勤のため鵠沼海岸駅から小田急に乗り何時もの席に座り週刊誌に目を通していると、よく見かける眼鏡を掛けた小柄な紳士が私の前に立ち声をかけてきた。

テレビで拝見した探求クラブの北岡さんですか？　私こういう者ですと名刺を差し出された。　そこには　三共製薬(株)中央研究所　主任研究員・農学博士（京都大学)・西村 卓三 とあったのが強く印象に残っている。

そしてテレビで見た探求クラブに興味があるので是非話を聞きたいと言うことで改めて会うことにした。その折、私の勤務先が横浜と言うことで一度野毛の飲み屋街に行きたいと希望があり、野毛の飲み屋街から関内へと回遊、結局帰りはタクシー‥‥。

故人は京都西陣の織屋のボンボン、純粋の研究者肌の学者で、平成 7 年に入会し 25 年間在籍された。

氏は色々なことに興味を示し当時の殆どの部会に顔を出して活動に参加していた。入会 2～3 年後にパソコンの部会を作りたいと言う事で、結局立ち上げをお手伝いすることになり大変苦労した記憶がある。今のデジタル情報部会の始まりである。その後パソコンスクールの開校やホームページの立ち上げなどに尽力された。

氏は会誌くぐひの投稿にも積極的で「くるまいじり」「ニッカド人生」「ビタミンＣは風邪に効く？」ふぐ毒について書いた「毒にも薬にも」などの蘊蓄話をはじめ、執筆は 20 件以上を数える。

会社人間と言うよりは、学者人間から社会人間になった異質の人だったのではなかろうか。

改めてご冥福をお祈りいたします。　合掌

～例会・各部会活動報告～

12月　December

○例会 7日(月) 新型コロナ感染対策の上、公民館ホールで開催　出席者37名 在籍者53名(休会1名)　12月度会費は徴収せず(賛成多数)
○行事 なし
○世話人・委員会 ①世話人会2日 ②くぐひ制作部 ◆9日公民館で開催 7名・くぐひ104号推敲 ◆22日80部印刷 7名 ③メディア委員会･ＨＰ制作部 休会。
○鵠沼松が岡公園愛護会 ◆6日17名清掃等 ◆27日14名年末清掃
○藤が谷公園愛護会 ◆13日12(1)名清掃等　◆28日8名年末清掃
○ヤングハーツ 2日14(7)名 練習
○おもちゃの病院 預かりのみ 13/27日10/11(1)名 来院20/20名 新患28/15件 退院･引取10/17件 当日完治1/1件　部会長交代 池田(雄)→長谷川
○鵠っ子囲碁･将棋ルーム 20日　子供8名 8(1)名 公民館1名 将棋の講義のみ
○災害研究部会 4日3名 台風･浸水等
○健康部会 18日8名 引地川沿い
○農園部会 6日 6名 大根･白菜収穫
○スケッチ部会　解散を決定
○なつかしの名盤愛好会 部会長交代 佐野→奥村
○俳句の部会「似歌会」 通信句会 10名

以下の部会は新型コロナ感染対策等のため休会
○子どもと遊ぶ会　○極楽部会　○サロン会
○探訪部会　○カラオケ部会　○談話室
○デジタル情報部会　○ヤングブラザーズ
○近代史を語る会　○企業研究部会
○なつかしの名盤愛好会　○おひる探Ｑ会

1月　January

○例会 休会(新型コロナウイルス感染対策)、例会資料は配付 資料で西村卓三会員の逝去報告
○行事 なし
○世話人・委員会 ①世話人会 6日,27日(Zoom) ②くぐひ制作部 公民館閉鎖のためメール交信で実施、105号の編集方針決定 ③メディア委員会･ＨＰ制作部 休会
○鵠沼松が岡公園愛護会 10/31日13/6名 清掃
○藤が谷公園愛護会 10日11(1)名 清掃
○おもちゃの病院 13日台風で中止　27日8名 来院者16名 新患15件 退院引取3件 当日完治7件
○農園部会 10/25/30日6/4/6名 収穫、苗植え
○俳句の部会「似歌会」 通信句会

以下の部会は新型コロナ感染対策等のため休会
○ヤングハーツ　○おもちゃの病院
○子どもと遊ぶ会　○鵠っ子囲碁・将棋ルーム
○災害研究部会　○極楽部会
○サロン会　○健康部会○探訪部会　(合同)
○カラオケ部会　○談話室　○デジタル情報部会
○ヤングブラザーズ　○近代史を語る会
○企業研究部会　○なつかしの名盤愛好会
○おひる探Ｑ会

2月　February

○例会 休会(新型コロナウイルス感染対策)、例会資料は配付　資料で退会者1名報告
○行事　なし
○世話人・委員会 ①世話人会　4日(Zoom) ②くぐひ制作部10日(Zoom) 8名 第105号第2回編集会議 ③ＨＰ制作部 24日 オンラインで新コーナー検討 ④メディア委員会 休会
○鵠沼松が岡公園愛護会 7/21日 17/16(1)名 清掃
○藤が谷公園愛護会 14日 12(1)名 清掃
○農園部会 7/21日 5/8(1)名 手入れ
○俳句の部会「似歌会」通信句会

以下の部会は新型コロナ感染対策等のため休会
○ヤングハーツ　○おもちゃの病院
○子どもと遊ぶ会　○鵠っ子囲碁・将棋ルーム
○災害研究部会　○極楽部会　○サロン会
○健康部会　○探訪部会　○カラオケ部会
○談話室　○デジタル情報部会
○ヤングブラザーズ　○近代史を語る会
○企業研究部会　○なつかしの名盤愛好会
○おひる探Ｑ会

()内はゲスト人数で内数

「くげぬま探求クラブ」はあなたの入会をお待ちしています。
「会社人間から社会人間へ」を目指す方々は「発行人の大木」までご連絡下さい。
ホームページアドレス　http://kugenumatankyuclub.web.fc2.com/
「くげぬま探求」または「鵠沼探求」で検索してください

『くぐひ』への投稿を募集中です！　　*くぐひ制作部*

＜私の宝物＞初めてのカメラとか、今でも手放せない思い出の品物について。
＜初めてのレコード＞初めて買ったレコードの思い出話など。
＜私のこの一冊＞無人島に行くならこれだけは持っていきたいなど、とっておきの一冊。
＜私の人生最高のレストラン＞私にとって忘れがたいレストラン物語。
その他＜私の健康法＞＜最近ハマってます＞＜海外滞在記＞＜我が家の事件簿＞など、内容はご自由にお選びください。

自 由 席

白内障手術ビフォア・アフター

小山 和彦

昨年 9 月、かねてから考えていた白内障の手術を受けた。

遡れば乱視と近視を親からいただいたお陰で、私は近視性乱視。すでに小学校低学年で眼鏡をかけ始めていた。以来、60 数年にわたって私は裸眼ではっきりと物を見たことがない。

育ったのは北海道の片田舎で、夜は道路端の電柱の照明以外はほとんど明るさのないところであったから、冬の夜は天の星が降らんばかりに輝いていて星座を見分けるのに苦労するほどなのだが、悲しいかなこの視力では花火のように広がった星が無数に見えるだけであった。天文学に興味を持ち始めたころであったから、あの星がオリオン座のベテルギウスだなどと言って眺めてみても放射状に広がった赤っぽい星にしか見えなかった。

時は流れ、60 代後半になって眼鏡をかけていても物が見えにくくなってきた。窓際のテレビを見ても外の光が眩しくて画面がよく見えず野球帽をかぶって視たり、知り合いとすれ違ってもわからなかったり、夜間の運転では相手のヘッドライトが眩しくて周りの状況がわかりにくくなってきたりと生活に支障が出始めた

白内障手術を考えたのだが、昔からあまり医者にかかるのが好きではないし、さらには開いた眼にメスなど入れていじられるなどとても恐くて数年間は二の足を踏んでいたのだが、とうとう我慢も限界、あれこれ調べたり、探求クラブメンバーの経験者の話を聞いたりして、“清水の舞台から”と手術を受けることに決めた。

私のかかった医者は日帰り手術なので左眼を先に、一週間後に右眼をということになった。視力、視界などあれこれ検査した上で、入れるレンズはどうするかとの問いに、これまで見えて事がない遠くのものをはっきり見たいから迷わず遠方設定でお願いする。

いざ本番。ドキドキしながら手術の椅子に座り、時を待つ。「始めます。上の方の明るい光を見ていてください。」と言われ眩しい光を見ているうちにものの 10 分くらいで手術は終了。眼の中に入ってくるメスやら器具が見えるのかと緊張したのだが、取り越し苦労であった。一週間後に右も手術、いよいよ両眼でしかも裸眼で物が見られる時がきた。

朝起きて、恐る恐る眼帯を外して辺りを見てみた。なんということか！全てのものがハッキリ・クッキリしかも色鮮やかに見えた。その時の感動はちょっと言葉に表せない。

言うならば“ビフォア”は、色付きの歪んだガラスを通して外を見ていたようなもので、“アフター”は、あたかもパソコンの PHOTO アプリで彩度を修正し、クッキリ補正を行ったかのように黒は真っ黒、赤は真っ赤、これが本当の色なのか！そして星はちゃんと点に見える。コントラストもよくなり、文字の輪郭もはっきりだ。しかも明るく見えるのに眩しさは感じない。近視も見事になくなり、乱視もごくわずかになった。生まれて初めてレンズ越しではない生の眼でハッキリ・クッキリ、しかも極彩色で世の中を見ることができて感動している。眼のいい人はこのように世界が見えていたのかと思うと何だかとても羨ましい気持ちも沸き、こんなことならもっと早くやっておけばよかったと思ったのであった。残りの人生、そう長くはないが綺麗に見える世の中で暮らしていける幸せを感じている。

編集後記　本年 1 月に新型コロナの緊急事態宣言が再度発出され、わがクラブも活動自粛が続く中、3 月に世話人交代のための選挙が行われた。6 名の新世話人が新たに選出され、巻頭記事は新世話人代表の大木さんにお願いした。運営しにくい時期を乗り切って退任した 6 名の世話人には一言ずつコメントを頂いた。奥村さん、池田修さん、田中力さん、嶋村さん、水野さん、岡林さん、お疲れ様でした。今年の年男欄には佐々木黎治、田中力、森正孝、大木信一の 4 氏が登場。かわら版に塩川が「自分史エッセイ作り」を投稿。部会紹介としては「地域活動部門」に鵠っ子囲碁・将棋ルームの河村さん、「親睦・研鑽部門」に農園部会の鶴田さんが登場。平成 7 年に入会され昨年末に逝去された西村さんへの追悼文を北岡さんが寄稿した。自由席には小山さんが投稿、我々にも身近な「白内障」の経験談を紹介した。多くの行事が中止となる中、くぐひ制作部はオンライン編集会議を開催し、活動を継続した。
（塩爺）

会報　くぐひ　第 105 号
2021 年 4 月 1 日
発行 くげぬま探求クラブ
発行人 大木 信一
編集長 塩川 昌男